

施設名	河辺学童保育所以下3か所		
指定管理者名	知創株式会社		
指定管理期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日	担当課	子育て推進課
設置目的	小学校に在籍する児童で、放課後家庭において保護者の適切な監護が受けられないものの健全な育成を図るため。		

評価ランク	評価内容
S	協定等を遵守し、仕様よりも優れた管理であった。
A	協定等を遵守し、仕様に沿った管理であった。
B	協定等を遵守し、おおむね仕様に沿った管理であったが、一部に課題があった。
C	協定等を遵守できず、仕様に沿った管理ができなかった。

評価項目	評価内容	評価方法	指定管理者評価	評価理由	担当課評価	
管理状況	適性な管理の履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか。 ・業務の履行(清掃・巡回の回数など)は適切か ・人員配置は適切か。 ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	事業報告書、月次報告書	A	協定や事業計画にもとづき、施設の設置目的に沿った事業運営ができた。人員配置については臨時開所で人員不足の中、適正配置に努め前年の様な欠員とはならなかった。	A
	事業報告	定められた期間での報告および連絡が指定管理者からされているか。	事業報告書、月次報告書	S	月次報告を、納期の延滞無く、定められた期限前に書類提出を行った。	S
	安全性の確保	管理区域内の安全性については十分に確保されているか。 ・施設の安全性は確保されているか ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	現地調査	S	「安全第一」の社方針に則し、また協定や事業計画にもとづき、安全性確保を最優先に、施設の運営・管理を行った。	A
	法令等の遵守	個人情報保護のための体制、書類および情報の整理および保管等は適正であるか。 ・市への報告は適時、適切にされているか など	現地調査	A	適正な執行に努めた。	A
	業務記録	業務等の記録は、適正に作成、整理および保管がされているか。	事業報告書、月次報告書	A	適正に実施した。	A
	緊急時対応	災害時等の緊急時の体制は整っているか。	事業報告書、ヒアリング	S	災害発生時のマニュアル等を整備し、連絡体制を確認している。	S
		災害時等の緊急時の対応研修、訓練等は行っているか。	事業報告書、ヒアリング	A	コロナ禍で研修参加が減少したが、3密を避け出来る限り参加できた。会議にて緊急時の対応確認を行っている。	A
適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか ・建物や器具の破損、物品の紛失等はあるか など	事業報告書、現地調査	A	適切に実施している。	A	
事業効果等	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか ・事業の計画、実施、成果は計画どおりか など	事業報告書、月次報告書	A	季節行事開催など積極的に取り組んだ。	A
	利用の状況	事業計画どおりの利用状況となっているか ・利用児童の保育の状況は適切であるか など	事業報告書、月次報告書	A	コロナウイルス感染症のため、事業計画時どおりには行かなかったが、適切な保育を実施した。	A
	利用者意見の収集	利用者アンケート等を年1回以上実施し、利用者意見の収集をおこなっているか	アンケート	A	アンケートの実施(9月)に合わせて、利用者意見の収集に努めた。	A
		利用者の満足度を得られているか ・職員の接客対応、利用条件等は適切か	アンケート	A	保護者の多くの方教室が3密で心配と回答したため、出来る限り消毒や換気を行った。	B
	利用者意見に対する対応	利用者アンケート等による意見に対し、適切に改善策が講じられているか	アンケート	A	アンケート内容を踏まえ、改善対応に努めた。	A
行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか ・施設の設置目的を達成しているか ・市および関係機関との連携が適切に行われているか など	事業報告書、月次報告書	S	子どもたちの安全・安心な居場所としての機能を果たした。市と情報共有を欠かさずに児童に寄り添った支援と対応ができた。	A	

	その他提案内容等	指定管理者選定時に提案のあった事項等について、提案とおりに実施できたか	事業報告書、 月次報告書	A	提案した日替りプログラムは、アンケート結果や利用者の声を踏まえ、一部の実施を見合わせるがあった。	A
会計	処理	管理業務の会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされているか。	事業報告書、 現地調査	A	適正に整備し、管理している。	A
	管理	現金等の管理は適正であるか。また、金庫等の鍵の管理は適正であるか。	事業報告書、 現地調査	A	適正に管理している。	A
収支状況	施設の収支決算状況	赤字決算に陥っていないか。予算と決算に大きな相違があった場合はその相違の理由が的確である。	事業報告書、 決算報告書	A	前年度は赤字決算にはならなかったが、今年度は黒字決算となった。	A
	指定管理者の収支決算状況	経常利益率(経常利益÷売上高×100(当期経常増益額÷経常利益×100))がプラスになっており、赤字決算に陥っていない。	事業報告書、 決算報告書	A	経常利益率は、プラスとなっている。	A
		借入金に依存した資本構造ではなく、自己資本比率(自己資本(または正味財産)÷総資本×100)が30%以上となっている。	事業報告書、 決算報告書	A	多少借入金依存の資本構造となっているが、今期は営業利益も増加傾向にあり経営は安定している。	A
		流動比率(流動資産÷流動負債×100)が100%以上となっており、事業継続の安全性に不安がない。	事業報告書、 決算報告書	A	流動比率は高い水準を維持しており、事業継続の安全性に不安はない。	A

1 指定管理者自己評価における評価理由、意見等

評点	数
S	4
A	17
B	0
C	0

記入欄

協定や事業計画にもとづき、経営理念、保育方針に沿った事業運営を行ったが、コロナ禍ということもありマスク着用もあり特に児童の表情確認や、保護者とのコミュニケーションの部分で苦慮した。安全・安心で楽しい学童クラブ運営を行うために、運営に携わるすべての支援員の質(支援スキル)の向上が喫緊の課題と捉えている。クラブ運営に当たっては、日替わりプログラムの導入を計画していたが、一部の保護者より「外遊びの時間が減った」等のご意見があったが、室内での3密を避けた遊びを多く取り入れた。保護者とのコミュニケーションも円滑になってきたため、児童にとって、また保護者にとって安全・安心で楽しい学童クラブ運営とは何か、共に模索していきたいと考えている。

2 市の評価、意見等

評点	数
S	2
A	18
B	1
C	0

記入欄

・協定や事業計画に沿って事業の実施や管理運営を行った。特に、児童・保護者との情報共有やコミュニケーションを積極的に図り、安全・安心で児童が通所して楽しむことができる学童保育事業を展開している。
 ・指定管理業務2年目として、昨年度の課題を改善していくとともに、すべての支援員の保育の質の向上に努め、引き続きより良い学童保育の運営に努めた。
 ・特別な支援を必要とする児童について、どのように保育を行えばより良い時間を過ごしてもらえるか児童に寄り添った支援を行った。
 ・各種季節に応じた行事の実施や制作作業など、児童が楽しめるような事業の実施に取り組んだ。
 ・学校やタヤけランドと定期的に情報共有を行うなど、関係機関との連携した学童保育所の運営を実施した。
 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対策として、児童の体調管理や施設内定期的な換気や消毒の実施など、衛生管理を実施した。